

「世界のあいさつ」(J385f)

長 新太/さく 野村 雅一/監修 福音館書店



みんなはあいさつするとき、おじぎをするね。でも、外国の人からはへんにみえるらしいよ。世界には、においをかいだり、舌を出したり、「えっ!」とおどろくようなあいさつもある。いろんな国のあいさつをおぼえて、いつか世界中の人と友だちになりたいね。

「世界の家 世界の暮らし」1~3 (J383I1~3) SDGsにつながる国際理解

ERIKO/著 汐文社

家はその国の気こうや生活に合うように建てられている。キッチンの中に当たり前のようにパン焼きがまがある国や、少しでもすすしいようにハンモックでねむる国もある。世界の家をたずねてみよう。



図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。休館日や開館時間、イベント等の最新情報もこちらからご確認ください。



狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646
狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801
狭山市公式HP <http://www.city.sayama.saitama.jp/>



よむぞうタイムズ 81号

3年生 4年生

狭山市立図書館 2021.7.1発行

世界にはいま196の国があるんだって！
一年中真夏みたいにあつい国や
冬の間、夜がずっとつづく国もある。
ちがっているから、おもしろい。
たくさんの国をたずねてみよう。



「行ってみたいなあんな国こんな国」1~7(J290t1~7)

東 菜奈/作 岩崎書店



日本はアジアのなかの国。アジアにはほかにもたくさん
の国がある。中国の人口は世界一。からくておいしい
タイ料理。583もの言葉が使われているインドネ
シア。色あざやかな民族衣装もさまざまで、どの国も
とってもみりよくてきだよ。



ヨーロッパやアフリカなど、
ほかの国も見てみよう。

アジア 1・2
ヨーロッパ 1・2
北米/オセアニア
中南米
アフリカ

<さやまの100冊>



「子どものときに読みたい本100冊」(さやまの100冊)は、教育委員会がおすすめしている本です。ぜひ、読んでみてください。

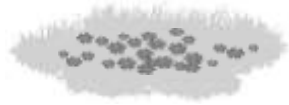
「ただいま!マラング村」(JSシ)

タンザニアの男の子のお話

ハンナ・ショット/作 佐々木 田鶴子/訳
齊藤 木綿子/絵 徳間書店

タンザニアの小さな村で生まれたツソ。いじわるなおばさんの家から、お兄ちゃんと二人で逃げ出した。バスに乗ってもっと大きな町へ行くんだ。

ところが、人ごみの中でお兄ちゃんとはぐれてしまった。4才でストリートチルドレンになったツソの実話をもとにした物語。



「世界のおかしばなし」(JAセ)

瀬田 貞二/訳 太田 大八/絵 のら書店

「あけないように、気をつけてくださいよ。」ダメと言われると、どうしても中を見たくなる。開くとはちがとび出して、それをおんどりが食べちゃった!さてさて、どうなる?



世界各国に語りつがれてきた「むかしむかし」のゆかいなお話、14へんがのってるよ。



「リキシャ★ガール」(JSパ)

ミタリ・パーキンス/作 ジェイミー・ホーガン/絵
永瀬 比奈/訳 鈴木出版

10才のナイマは、学校をやめて家の手伝いをしている。男の子は働けるのに、女の子は仕事につけない。ナイマは病気の父親のかわりにリキシャ(人を乗せる三輪自転車)を運転しようとしたが、動き出したリキシャは思ったよりも重くて…。自分の道を切り開く
バングラデシュの女の子の話。



「わたしも水着をきてみたい」(JS入)

オーサ・ストルク/作 ヒッテ・スパー/絵
きただい えりこ/訳 さ・え・ら書房

プールで泳ぐクラスのみみんなはすごく楽しそう。でも、ファドマは服を着たままプールサイドで見学だ。イスラム教徒の女の子は、はだを見せちゃいけないし、男の子と泳ぐなんてもってのほか。でも、勇気を出して一歩ふみ出そう。



きっと新しい自分
であえるよ。



「ランドセルは海を越えて」(J376ウ)

内堀 タケシ/写真・文 ポプラ社

日本で使われなくなったランドセルが、戦争じょうたいのアフガニスタンにとどけられた。子どもたちは学校に行きたくても行けない。教科書もノートも、校しゃすらない。

「学校が家にやってきたみたい」ランドセルを手によるこぶ子どもたち。学ぶことは未来につながる希望なんだ。

続編に「7年目のランドセル」(J376ウ) 国土社もあります。



「道はみんなのもの」(EEド)

クルーサ/文 モニカ・ドペルト/絵
岡野 富茂子/共訳 岡野 恭介/共訳
さ・え・ら書房

しゃ面にびっしりと家が建っているベネズエラの町。外で遊びたくても場所がない。「道で遊ぶな」って言うけれど、子どもには遊び場が必要なんだ。意見をまとめて、声をあげた。

「公園をつくってください。」子どもたちは、市役所を目指して歩きはじめた。

